

滋賀県内でも発生しています。 Webサイトの脆弱性を突いたサイバー攻撃

WebサイトやECサイトを作成する際に利用されているソフトウェアにCMSがありますが、CMSの脆弱性を悪用した不正アクセス及びWebサイト改ざん等が発生しています。

WebサイトやECサイトを運用している方は、ソフトウェアの脆弱性情報を確認して、脆弱性がある場合や更新プログラムが提供されている場合は、適用するようにしてください。

特に、年末年始等の長期休暇中は、メンテナンスが行き届きにくい状況となりますので、事前にチェックしておきましょう。



CMSとは

Contents Management System (CMS) とは、Webサイトの作成、管理及び運用を行うための管理システムのことです。

Webサイトを作成するためのHTMLやCSS等の専門的な知識がなくても、簡単にWebサイトを作成できます。

CMSは、様々な種類のシステムがあり、代表的なものに「WordPress」(無料)があります。

また、商用パッケージ版(有料)等もあり、保守・管理してくれるサービスも展開されるなど多くのサイトで利用されています。

脆弱性とは

「脆弱」というのは、もろくて弱いという意味ですが、コンピュータの世界でいう脆弱性は、プログラム上の不備や欠陥のことをいいます。

プログラムは、コンピュータに対する命令を記述したもので、プログラムを組み合わせたものがソフトウェアとなります。プログラムは非常に複雑で不備なく完璧に作成することは困難とされています。

ですから、ソフトウェアは、提供後も脆弱性が見つかったら、修正しながら利用していく仕組みとなっています。脆弱性を放置すると危険ですので、修正プログラムは必ず適用しましょう。

脆弱性が悪用されると、本来、外部から受け付けることができないコマンド(コンピュータに処理させたい事項を実行させる命令)が実行可能となる場合があり、下記のような被害が発生します。

- Webサイトに無関係の文字等を表示させられる。
- 無関係なサイト(フィッシングサイト等)に誘導される。(クロスサイトスクリプティング)
- 個人情報等の重要情報が盗み取られる。
- ウイルス感染 など

共通脆弱性識別子(CVE)

CVE(Common Vulnerabilities and Exposures)は、個別製品中の脆弱性を対象として、米国政府の支援を受けた非営利団体MITRE社が採番している識別子で、国内外の脆弱性について情報収集及び提供されています。

ソフトウェアにおける脆弱性に一意の識別番号「CVE識別番号(CVE-ID)」を付与することにより、ベンダー間の情報共有や対策に活用されています。識別子は、「CVE-西暦-連番」で構成されています。

CVEの情報は「JVN」(Japan Vulnerabilities Note)で公開されています。

参考サイト: IPA (<https://www.ipa.go.jp/security/vuln/CVE.html>)

JVN (<https://jvn.jp>)



脆弱性対策は、セキュリティ対策の基本です。
早めの対応で、被害を防止しましょう。



滋賀県警では、県内事業者を対象に体験型サイバーセキュリティセミナーを実施しています。
標的型メール攻撃やウイルス感染の体験ができます。ご興味のある方はぜひご連絡下さい。